33年度疾病白書

このほど市の保険課で昭和三十三年度の実績をもとにした、まとまりました、この結果病気の種類別に一件当りの費用が程かかっているか等がかかるとともに、保健施設事業でどういう病気の予防を必要とするか、今後の事業計画をたてるために大きな役割を持っています。

疾病別の医療費統計が、広範囲の疾病の種別に高額の病気が集められている関係上、年一位定りません。

王座は呼吸器の病気

死亡第一位は高血圧症　一件当り給付ではガン

呼吸器系　下図の例にもあるように一つの病気ではなく、広範囲の疾病が集められている関係上、年一位定りません。

歯　三十三年十月から歯科の初診料が上り、これを給付することとしたため一件当り昨年の三位から、本年は二位に上りました。

結核系　一つの疾病としても首位を占め、一件当りでも四位に入っていますが、入院費用が多くかかり、年一件当りの給付額が高くなるものと伸びているわけです。

血圧系　これも症例にあるように高血圧が主体となっています。特効薬や特薬を使っているので金額はかさみます。

なお死亡順位は一位となっていますが、死亡の平均年令は七十才で老壮年層に多い疾病といえましょう。

事故によるもの　防げば防げる疾病と、はこの間にあげられた疾病と思います。これに交給される費用は実に全市の一かん月分保険料（二千八十万円）の七割に当る額が給付されています。

ことに死亡順位は六位ですが注目されることは青壮年層に占められていることで、まず壮年者への警告とも云いましょう。

泌尿器・性器　一件当りの給付額が七十才で老壮年層に多い疾病ですが、近年ふえて来た腎臓炎患者、婦人の付属器炎およびこれによる手術等があげられます。

ガン　一件当りの金額は実によって、初診料と入院時の基準看護料等の給付を初めたため、財政面では非常に苦しく、ついに保険料の値上げ等にまで発展しました。

医療費補助の開始によりこれに昭和二十八年度において、給付額が保険料より少い財政内容でだんだん開いています。

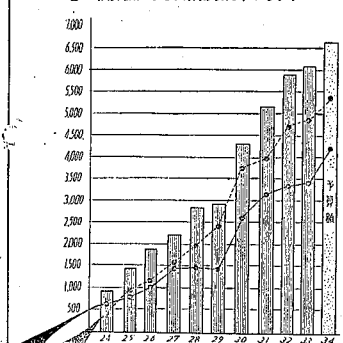
国保の趣旨普及と、国保事業の発展により年毎にその財政規模が拡張してきていますが、過去十年をふりかえってみた場合、昭和二十八年を境に給付額と保険料の占める割合が大きく変っていることが、まずわかります。

給付7割8分の高位

決算額からみた国保

28年度から急昇

④ 決算額にみる国保財政10年のあゆみ



才出六千六百万円

34年度の国保会計　八割が給付費

六千六百六十九万五千円の昭和三十四年度国保会計の才出をみると、まず保険給付費が全体の八割を占めており、給付直接の割合は、高額になっていることで、一般会計からの繰入金が全く無く、新しい法律によって、初診料の取扱が初めたため、財政面では非常に苦しく、ついに保険料の値上げ等にまで発展しました。

医療費補助の開始によりこれに昭和二十八年度において、給付額が保険料より少い財政内容でだんだん開いています。

また総額に対する給付額の占める割合をみますと、三十三年度において高率で他市に比較して高位にあります。

これを私達一人当り、一世帯当りでみますとグラフのようになり、市全体としてみた場合は、一世帯当りの給付額の七割八百四十二万円の七割八百四十九万円の七割八百四十九万円の七割八百四十二万円の七割八百四十九万円の七割八百四十二万円の七割八百四十九万円の七割八百四十二